

## 医療技術短期大学の WWW サーバの運用について

小林千世, 百瀬由美子, 曾根原純子, 鈴木治郎

### A note on the management of WWW-server at School of Allied Medical Sciences, Shinshu University

This is a survey article for the WWW-server on our school from September 1995 to August 1996. One of the most development of contents is the subject for Nursing. We set the aim of this contents to high school students whom can understand real nurse image.

#### Key Words :

Nursing education (看護教育), Internet (インターネット), WWW (WWW)

#### はじめに

前報告<sup>1)</sup>では大学における情報公開の一環として、信州大学医療技術短期大学部（以下「医短」と略す）のホームページの公開およびその運営に関する統計情報等について報告した。その後の国内におけるホームページにまつわる情報公開に関しては、とにかくホームページを開くこと自体が目的化していた昨年の本報告時点と比べて、そのホームページにおける情報公開の質が問われる状況へと変化した<sup>2)</sup>。

そうした点を踏まえて以下に述べる目的にしたがって看護学科を志望する高校生を対象と考えたホームページの追加を図ったので、そのことについて報告する。また、前報告に引き続き医短サーバの運用状況を統計情報と

ともに述べる。

#### 看護学科関連の情報発信

##### 1. 医療情報を提供する上での社会状況の評価

医短におけるホームページにおいては、前報告の2人の筆者が非医療専門だった点もあって、医療系情報に関しては保健衛生関係がほとんどであり、医短というサブジェクトから期待される医療関係者ならではの情報発信というものは少なかった。

そこで筆者達はホームページ作成に盛り込む情報を考慮する上で、96年上半期における医療周辺系情報として次の4点をとくに注目すべきものと考えた。

- 血液製剤によるエイズ感染と情報公開
- 大腸菌 O 157 にみる誤信情報とそれを正

す情報，さらに WWW の速報性

- 介護法案の内容審議を伴わなかった国会審議，それに対する現在市民が知りうる情報
- 漫画『おたんこナース』<sup>3)</sup>および TV ドラマ『ナースのお仕事』<sup>4)</sup>に見られる看護婦像の変化

これらの出来事はいずれも，改めて情報公開の必要性を再認識させるとともに，一般市民がこうした情報にアクセスできなかったことにより受けた不利益，またマスコミを通じてしか情報の得られない場合に誤信の流布を含めて偏った情報によるイメージの形成がなされるか，という問題を示唆している。

こうした問題に対して，マスコミによる偏ったイメージ形成の大きな対象として看護婦像に対する情報提供を取り上げることとした。

## 2. 国内大学・医短での看護学科の情報提供の状況

96年6月末現在<sup>5)</sup>で，国内において開いているホームページ（医療技術短期大学部看護学科（3件，本学を含む）及び4年制大学の看護学科・看護学専攻（2件）を検索した。

医短においては学科あるいは学科の科目紹介にとどまるところもあり，その他教員の連絡先（電話番号・電子メールのアドレス），在校生のページ，求人情報などが情報として公開されていた。また，学生の募集要項や学科説明会の案内，入学状況，求人状況などが受験生を対象とした情報と思われた。4年制大学では，学科の特色として教育理念・各専攻の特徴・卒業後の選択肢を，学科紹介として研究室や学位及び修士論文のテーマ，大学院卒業者の進路，研究課題や公表された業績などを公開していた。これら検索の結果は，それぞれの学校履修案内や学習要項などにみら

れる情報であり，皆川<sup>6)</sup>において，各大学が自校の特徴をアピールしながらこうした情報をわが国でも公開することが期待されるものだ，と述べている情報だった。

しかし，本学看護学科で現在公開されている情報は自校の特徴を十分にアピールする内容としては検討の余地があると思われた。また皆川らが学習に取り組もうとする利用者の教育施設の選択活動をサポートする手段となりうるだろう<sup>6)</sup>と述べた看護教育に関する情報の公開は少なかった。

## 3. 高校生の看護婦に対する意識

高校生の看護婦に対するイメージは社会貢献，やりがい，専門職と言った形成的イメージは高いが作業環境や勤務時間などの機能的イメージは低く，看護婦の仕事としては診療補助業務が主な業務と考えており，看護婦の専門的な能力を必要とする健康に関する指導や日常生活の世話といった看護婦独自の機能を果たしていることに関しては意外に知られていない<sup>7)</sup>。高校生が望む職業キャリアパターンは，「仕事の面で専門能力を身につけゆとりをもってのんびりとやりたい」<sup>8)</sup>であり，看護婦のイメージとはくいちがっており看護婦に対して良いイメージを持っていないと考えられた。また，看護婦を志望しているものであっても看護学校に対して暗いイメージを持ってると報告する研究もあり<sup>9)</sup>，看護教育の情報公開の重要性が再認識された。

高校生は進路選択の際に自分の意志で決めると報告されている<sup>7)</sup>。そこで，これから進路を決定しようとする高校生に対して専門職である看護婦として豊かな人間性を身につけ幅広い知識，基本的技術，科学的志向をもって実践できる卒業生を育てようとする看護教育について，積極的にアピールしていくことも必要と考えられる。

#### 4. 本学ホームページで公開する情報

現在公開されている情報や高校生の看護婦に対する意識から、本学の入学志願者を対象とした情報公開の内容としては、①看護教育としては、入学後1年以内に開始される基礎看護学の実習や2年次の基礎看護実習の様子などを取り入れ、それに関連する専門科目のカリキュラム、②自校の特徴をアピールするものとして教員が実際に関わっている医療上の問題を抱えた患者や家族の会・研究テーマの紹介や卒後の活動をサポートすることが期待される同窓会の活動報告などを加えることにした。以下にその構成を示す。URLは <http://alps.shinshu-u.ac.jp/ITAN/NS/nsJ.html> である。

##### 〈情報の構成〉

##### 1. 看護学科の紹介

##### 2. 専門科目の紹介

###### ①講義

###### ②実習

##### 1) 1年次で体験する技術実習

- ・病院見学
- ・ベッドメイキング
- ・体位変換・良肢位・移動
- ・衣・清潔への援助
- ・バイタル・サイン
- ・電法
- ・半日の病院実習

##### 2) 2年次で体験する技術実習

- ・感染予防
- ・診察・検査と看護（採血）
- ・食と栄養
- ・与薬
- ・排泄への援助（浣腸・導尿）
- ・看護過程・看護診断

##### 3. 教官紹介

##### 4. 教員の活動など

##### ①ぶらんこの会

##### ②日本コンチネンス協会

#### 5. 研究テーマ

##### ①看護学生の看護婦イメージ

#### 6. 同窓会活動報告

##### ①95年度事業報告

##### ②お知らせ・お願い

#### 7. 卒業生の進路

#### 5. 期待される影響

高校生は将来の職業選択において重要な時期にある。看護学科の志願者における看護婦（士）のイメージ形成にとって重要な役割をマスコミの情報発信が担っている中で、高校生が実際の仕事に対するイメージからは、すでに述べたように<sup>7)</sup>「健康に関する指導」などの重要な項目は欠落しているといっている。

今後の社会福祉をめぐる状況を考えれば、ボランティア精神の実現が主な目的であれば介護福祉士等の資格がますます求められるようになるだろう。そうした中で、より医療に即した、介護補助者とは異なり責任ある職業を希望するから看護婦（士）という道を選ぶ、そんな意識の高い入学者を多く受け入れる方向につながる情報を今後とも充実していくとともに、高校生に対する調査を行って提供情報の評価を行う予定である。

#### 1年間の運用状況

1995年9月から1996年8月にかけての本学WWWサーバーの運用状況を以下にあげる。利用数が増加したことを受けて、今回からは学内からのアクセス数（アクセス全体の約2割）を除いたものについてのみあげる。また、利用時間統計は、利用状況よりは、むしろサーバー側にあるデータ量の大きさを反映するものなので掲載をやめた。

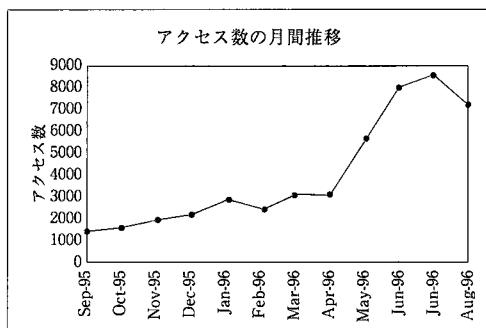


図1：アクセス数（ホームページのアクセスの総数）の推移

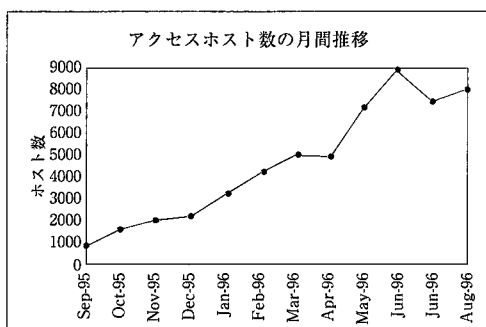


図2：ホスト数（アクセスしたホストの総数）の推移

図1および図2に見るように、アクセスの総数およびアクセスしたホストの総数ともに増加が続いている。社会的にインターネット利用者の急増している影響が本学サーバーにも現れているといえる。なお、利用者の増加を促す大きな社会現象としては1995年11月にWindows 95が発売となり、初心者でもほとんど設定抜きにインターネットに接続できるようになった。また医療機関では、1996年6月に『インターネット・メディカル・レビュー』<sup>5)</sup>の発売があった。しかしながら、そうした出来事の影響は上記統計にはとくに現れてはいない。

この理由はアクセス数の増加に対する影響の大きな部分は、インターネット利用者の増加および検索ホームページ<sup>2)</sup>を利用してアクセスする利用者が多くなったためと分析す

る。今後、提供したい情報に対してより多くのアクセスを期待するには、これら検索ホームページをうまく活用できるよう、ロボット<sup>2)</sup>による自動情報収集に対応したページタイトルの作成などに注意して情報構築をすることが重要になると考える。

## 文献

- 1) 鈴木治郎, 矢部正之: 医療技術短期大学部WWWサーバーの構築について, 信州大学医療技術短期大学部紀要, 21: 145-151, 1995.
- 2) 日本インターネット協会編: インターネット白書 '96, インプレス, 1996.
- 3) 佐々木倫子: おたんこナース, 週刊ビッグコミックスピリッツ, 小学館, 1995-1996.
- 4) フジテレビ: ナースのお仕事, フジテレビ, 1996.
- 5) 村瀬澄夫: INTERNET MEDICAL REVIEW, 株式会社チーム医療, 1996.
- 6) 皆川美紀ほか: 米国におけるインターネット上での看護教育情報について, 看護教育, 35(13): 74, 1994.
- 7) 正田美智子ほか: 高校生の看護婦に対する意識調査, 看護教育, 34(3): 192-198, 1993.
- 8) 高梨昌: 高卒者の進路選択と職業志向, 日本労働研究機構, 1, 1990.
- 9) 嶋田えみ子: 高校生に学校を開放して感じた手ごたえ, 看護教育, 32(11): 662, 1991.
- 10) 茂森照男, 金崎幸子: 高校生の職業意識の形成とその背景, 雇用職業研究, 26: 18-19, 1990.

受付日: 1996年9月30日

受理日: 1996年11月27日